

有機性排水処理技術分野 拡大ワーキンググループの実施報告

1. 拡大ワーキンググループの開催概要

- 広く事業に関する意見を集め、より効果的な制度の構築に向けた検討を行うことを目的に拡大ワーキンググループを開催した。
- ワーキンググループの検討員から4名、意見者として6名（実証機関関係者3名、技術開発者2名、ユーザー1名）が参加し、事業や対象技術への要望・意見、実証によるメリット等の向上について意見交換が行われた。
- また、開催に先立ち、環境省 HP にて意見募集を実施したところ7件の意見が寄せられた。

表 拡大 WG の実施概要

1. 開催日時：平成 19 年 12 月 5 日（水） 14:00～16:00
2. 開催場所：霞山会館 Room8 青花
3. 議題
（1）環境技術実証モデル事業（有機性排水処理技術分野）の概要について
（2）事業および対象技術分野への要望・意見
①対象技術および事業の運用についての要望・意見
②実証によるメリット等の向上についての要望・意見
（3）その他
4. 出席検討員：藤田正憲（座長）、岡田光正、中井尚、名取眞
意見者（実証機関）：大阪府環境農林水産総合研究所（平成 15, 16, 18, 19 年度実証機関）
広島県環境部環境対策局（平成 15, 16, 18 年度実証機関）
社団法人埼玉県環境検査研究協会（平成 19 年度実証機関）
意見者（環境技術開発者）：株式会社 丸八（平成 16 年度実証経験者）
デンセツ商事 株式会社（平成 16 年度実証経験者）
意見者（ユーザー）：サトレストランシステムズ株式会社
（平成 15, 16, 18, 19 年度技術実証委員会）
5. 事前に寄せられた意見：7 件
※開催に先立ち、環境省 HP において募集（平成 19 年 10 月 29 日（月）～11 月 20 日（火））

2. 主な要望・意見

○ 意見募集結果及び開催時に寄せられた主な意見を、以下に整理する。

(1) 事業や対象技術への要望・意見

- 厨房、食堂、食品工場関係以外にも技術の範囲を拡大すべき。
- 廃棄物対策にも寄与する「発生汚泥の減量化技術」を対象技術の枠組みに追加し、着目すべき。
- 手数料負担について、今後活用できる補助制度、助成金等との連携について検討すべきではないか。
- 環境技術開発者による自主試験結果の実証結果への利用は、海外での事例もあるため、今後検討していく必要がある。
- 環境技術開発者にとって、実証事業に携わることは製品の性能実証にとどまらず、外部からの技術的アドバイスが受けられる機会であるというメリットを、今後、浸透させていく必要がある。

(2) 実証によるメリット等の向上についての要望・意見

- エンドユーザーにとって利用しやすいHPになるよう取り組んでいく必要がある
- 実証を行った技術について紹介する場をより多く設けることが必要である。
- ETV ロゴマークは大変有用なものであり、より多くの人へ周知する必要がある。特に、ユーザーへの周知が必要。

(以上)